

## 少年院を出院した少年に関する研究（その2）

矯正協会附属中央研究所 大川 力  
 長谷川宜志  
 淵上 康幸\*  
 茂木善次郎  
 東京矯正管区 門本 泉\*\*

キーワード：再入少年，少年院教育，文章完成法，言語連想法

### 1 はじめに

本研究は紀要第9号に発表した同じ表題の研究（その1）の続報である。目的は、少年院に再入した少年の特性や、彼らが少年院そのものをどのように認識しているか、その教育をどのように受け止めているかを明らかにすることによって、再入少年に対する効果的な矯正教育の方向性を見いだすことにある。

調査内容としては、対象になった少年の属性について職員に依頼した調査と、少年自身に回答を求めた調査である。研究（その1）では、少年に対して実施した6項目の調査のうち、質問紙による自尊感情尺度、入院原因に関する質問、少年院の収容目的に関する質問についての結果を報告した。

その結果を簡単に要約すると、次の如くである。自尊感情については、出院期の再入少年が最も高く、新入期の再入少年が最も低くなっている。少年院に収容された原因についての認識では、再入少年を積極的に特徴づける項目はなかった。少年院へ収容する目的について、再入少年は、「教育し直し、よくするため」という認識を示しながら、その一方で、「社会から切り離して非行をさせない」

という単なる社会防衛の意味しかないという認識もあることが明らかになった。

研究（その2）では、（その1）と同時に収集した資料のうち、①文章完成法による調査、②言語連想法による調査及び③少年院で受けた指導に関する認識の3項目の分析結果について報告する。

### 2 調査目的

調査目的については、「はじめに」で述べたとおりであるが、文章完成法と言語連想法による調査は、他の質問紙法による調査方法と異なり、回答の意図的歪曲が少なくなり、潜在的な感情や考え方がとらえられる方法と考えられているために採用したものである。少年院で受けた指導に関する認識についての調査は、少年院で実際に経験した様々な指導について、少年がどのように感じているかを調べることを目的にしている。

### 3 方法

#### (1) 調査対象者

研究（その1）と同じ、全国の少年院49庁

\*現新潟少年鑑別所

\*\*現東京少年鑑別所

(医療少年院を除く)に在院している少年で、平成10年11月と12月に新入時教育と出院準備教育を受けた756名の少年である。表1に男女別及び教育過程と初入・再入別による群別で人員を示しておく。

表1 調査対象者

群別	男子	女子	合計
新入・初入群 (A群)	220	59	279
新入・再入群 (B群)	116	9	125
出院・初入群 (C群)	192	48	240
出院・再入群 (D群)	104	8	112
合計	632	124	756

## (2) 実施方法

今回報告の3項目の実施方法は次のとおりである(調査全体の実施方法は、前回報告に記載した)。

### ア 文章完成法

この調査は、性格検査として用いられている「文章完成法」の形式を利用したもので、少年院の生活に関する刺激語に続けて文章を作らせる方法である。これにより、少年院生活についての感じ方や見方を探ろうとするものである。

刺激文は以下のS1からS9のように、少年の少年院に対する感じ方や生活そのものが反映されるような文章とした。

- S1: 私が(前の)少年院で学んだことは、  
 S2: (前の)少年院に入ったころに比べて今の私は、  
 S3: (前の)少年院で生活した私は、  
 S4: (前の)少年院を出るころの私は、  
 S5: (前の)少年院で忘れられないことは、  
 S6: 私は(前の)少年院の先生に、  
 S7: 私は(前の)少年院の他の生徒に、  
 S8: (前の)少年院生活で辛かったことは、  
 S9: (前の)少年院生活でうれしかったことは、

また、(前の)という文言は新入期の再入少

年に実施した刺激文に入れた。すなわち、再入少年は2度目に入院した少年院の新入期に、前の少年院での生活を振り返って反応することが予測されるからである。更に、出院期の初入少年と再入少年については、今回経験した少年院生活に基づいて反応することができるから入れていない。

### イ 言語連想法

この調査も「言語連想法」の形式を利用したもので、「少年院」という言葉から連想されるものを自由に書かせる方法である。

今回の研究は、在院生の少年院そのものや指導に対する見方・感じ方を調査することを目的としているので、「少年院」という単語を提示し、連想する言葉を書いて貰った。

また、この検査を用いた目的は、質問に対して色々と考えを巡らせた結果の回答ではなく、直感的に想起したことを言葉として反応して貰うことにある。

整理方法としては、最初、一語一語の反応にIDナンバーと性別、初入・再入、新入・出院などの情報を与えてパソコンに入力し、更に同一の意味を持つ言葉は一つのカテゴリーとして整理した。

例えば、「坊主頭と丸坊主」「非行少年と不良少年」「こわいと怖い」といった同義語は一つのカテゴリーにまとめてある。

### ウ 少年院で受けた指導に関する認識

少年院における指導項目をできる限り網羅し、その指導を受けたことがあるか否かをまず回答し、次に、その指導が自分の「ためになった」かを5件法で回答するように設問した。

指導項目の選定については、少年院での処遇内容を網羅している「全国の少年院一特色あるその横顔」(法務省矯正局資料)から抽出した指導項目を、少年に理解しやすいように表現したものを質問として使った。

何をもって少年院の意図的な指導と言うかは異論もあろうと思われるが、本研究では49

種の指導項目を取り上げた。

例えば、教官の相談面接は「先生と面接して、自分のことや将来のことを相談する」というように、平易な言葉に置き直してある。

調査方法は、49種目の指導について、まず「体験したか」どうかを確かめ、体験したならば、その指導が「ためになったか」を判断させ、ためになった→5、すこしためになった→4、どちらともいえない→3、あまりためにならなかった→2、ためにならなかった→1、の5件法で回答を求めた。

### (3) 分析方法の方針

今回報告する調査結果は、統計学的に細密な分析を加えるには適さない資料であり、数量的にはおおづかみにして、個別的に解釈を加える方法を採用した。また言語連想の実施は、反応時間や連想の仕方は記録しないで、反応語のみを手がかりとして分析した。なお女子は資料数が少ないため群間の比較は男子のみで行った。

## 4 結果

### (1) 文章完成法

#### ア 調査対象者数

表1のうち、男子の新入・再入群116名、出院・初入群192名、出院・再入群104名の計412名である。当然のことながら、新入期の初入少年については、まだ少年院生活の経験がほとんどないため、この調査は不適當であり実施していない。

#### イ 整理方法

反応文の整理方法としては、その文章が意味している内容ごとに分類した。ただし、一つの反応文で、二つ以上の内容が含まれている場合は分けて分類した。

たとえば、「～耐えることのつらさと親のありがた味」の場合は、「耐えることのつらさ」と「親のありがた味」の二つに分けて分

類した。従って反応数は、調査対象者数より多くなっている。

分類基準は特に設けず、全反応文を通読したのち、内容的に多いものを大分類し、更にそれを細分類する方法をとった。その結果、9つの刺激文ごとに分類内容が異なることになった。

#### ウ 分析方法

再入群を中心に次の二通りの比較を試みた。

① 出院期における初入群と再入群の反応

② 新入期と出院期における再入群の反応

#### エ 結果

反応文を分類整理した結果は、S1からS9までの刺激文に対応した表2-1から表2-9までの整理表とし、結果の後に掲載したので、参照されたい。

S1：私が（前の）少年院で学んだことは、

① 出院期における初入群と再入群の反応

両群とも行動規範について学んだという反応が半数近くある。その主なものは、「忍耐することを覚えた」「我慢することが出来るようになった」「思いやりや相手の立場を尊重することが大切」という点を挙げている。そして再入群に「人間関係の難しさ」を感じたとする反応の多いことが目立ち、初入群の方には、「非行がいかにも悪いことであるか」を学んだとする反応がやや多くなっている。

② 新入期と出院期における再入群の反応

両群にかなりの違いが見られる。すなわち、新入期では、否定的反応が多く、学んだものは「何もない」「表面だけだった」という消極的な反応から、「何も役立たなかった」などの明確な否定まで見られる。その半面で、「仕事の大切さ」「働く楽しさ」「悪いことをしてはいけない」「悪友の問題をどうするか」などに触れた反応が多くなっている。出院期では、対人関係に関する反応が多く、特に「対人関係の難しさ」が目立っている。それと関連する意味合いがあるのか、両群に共通して行動規範に関する反応のうち、「思い

やり」「相手の気持ちの理解」が大切という反応が目立った。

S 2：(前の)少年院に入ったころに比べて今の私は、

① 出院期における初入群と再入群の反応

初入群も再入群も、全体的には「考え方が変わった」「成長した」などの肯定的反応が多い。多少の差があるのは、再入群に「大人になった」という反応があり、初入群に「思いやりが大切」「善悪の判断ができる」という反応が多くなっている点である。

② 新入期と出院期における再入群の反応

新入期に肯定的な反応が少なく、今の自分は「前よりもっと悪くなっている」と感じつつも、その半面で「更生しよう」と考える傾向が見られる。それに対して、出院期では「成長した」「大人になった」が多くなっている。

S 3：(前の)少年院で生活した私は、

① 出院期における初入群と再入群の反応

両群共に肯定的な反応が多い中で、それぞれの群の特徴として、初入群には「相手の、被害者の、家族の気持ちを考えるようになった」が多く、出院後の生活に「頑張ろう」とか「まともにやっていける」と積極的な構えがある。

再入群には「自分が悪かった」「反省が十分でなかった」と後悔の念が表され、自分が「変わった」「大人になった」という反応がやや多く見られる。

② 新入期と出院期における再入群の反応

新入期に「やる気がなかった」「自分が悪かった」「出ることしか考えていなかった」「失敗した」などの反省的な反応が多い。

対照的に、出院期は「変わった」「大人になった」という成長を自覚する反応が多くなっている。

S 4：(前の)少年院を出るころの私は、

① 出院期における初入群と再入群の反応

初入群は「ちゃんと心を入れ替えて出ていく」「非行を繰り返さない」と誓っているなど更生意欲を示す反応が目立つ反面、不安も

強く、「大変な思いををすると思う」「うれしさもあるが、更生できるか心配」などの反応がある。

再入群では、「物事の判断がそれなりにできるようになった」「社会人として認められる人間になっている。」など自己の変化についての反応が著しく多い。

② 新入期と出院期における再入群の反応

新入期は「もう悪いことは止めようと思っていた」「二度と社会からはみ出した行為はしないと思っていた」という決意のもとに前の少年院を出院したと思われる反応と、一方では「早く遊びたかった」「出ることしか考えなかった」という安易な院内生活ぶりをうかがわせる反応が多い。出院期は、先に述べたように自己変化についての反応と出院に際して不安と自信、緊張、期待などがなくなってきた反応が目立つ。

S 5：(前の)少年院で忘れられないことは、

この刺激文に対する反応としては、「楽しかった」「良かった」という明るい反応と「辛かった」「悲しかった」など暗い反応及び事実をそのまま想起している反応にほぼ3等分できた。

① 出院期における初入群と再入群の反応

再入群に、嬉しかったこととして、「自分のために先生方が一生懸命になってくれたこと」「多くの先生の助言です」など教官の支えにふれた反応と、辛かったこととしては、「規律違反をして、調査になったこと」「謹慎をもらって降級したこと」などの反応が見える。

初入群は、全体的には楽しい、良かったという反応がやや多いが、その中でも「辛いことがあっても、最後までやり通せたこと」という達成感を示す反応や、さまざまな行事や院外委嘱教育が忘れられないと言う反応が多い。

② 新入期と出院期における再入群の反応

両群は共に同じ傾向を見せている。すなわ

ち、「先生が私のことを色々と考えてくれた」「みんなの先生が見捨てないで応援してくれたこと」など教官の支援が心に残っていることを示している。その一方で、新入時には「謹慎になって、単独室で生活したこと」「出院が2ヶ月も遅れたこと」など、辛い体験が顕著に現れている。

S 6：私は（前の）少年院の先生に、

① 出院期における初入群と再入群の反応

いずれの群も教官に対する親和的反応が圧倒的に多いが、幾分か差のある点は、再入群に、教官に対する疎遠な感情を示す反応、例えば「あまりよい印象はない」のような反応がやや多く、初入群には、「怒られてばかりでした。でも楽しんでました」「こわいと思っていたが、少しは心が開けた」といった両面的反応の多いことが見られる。

② 新入期と出院期における再入群の反応

新入期は、「指導を受けた」「申し訳ない」という反応と同時に、「嫌われていた」「とても冷たくされていた」といった、教官に対する不信感を示す反応がみられる。

出院期の方には、「自己改善のきっかけを与えてくれて感謝している」「自分のことのように一生懸命になってくれて感謝している」など、感謝の気持ちを表した反応が非常に多い。

S 7：私は（前の）少年院の他の生徒に、

① 出院期における初入群と再入群の反応

再入群の方に、「頑張れよと、応援したい」という反応が多い反面、「あまり興味がなかった」「あまり好かれてはいなかった」と疎遠な感情を示す反応が見られた。それに対し、初入群では、「いろいろ学ばせてもらった」「助言してもらって嬉しかった」などの感謝の気持ちを含んだ反応があり、自分からは「何もしてあげられなかった」「もっと優しくし、住み良い環境を作ってあげれば良かったと思う」と反省する反応が目立つ。

② 新入期と出院期における再入群の反応

新入期は「みんなと仲良く、うまく付きあえた」という反応のみ多いが、全般的には他生に対する親和感を示す反応が少なく、反目を示す反応が多い。反目を表す反応には、単に疎隔感を示す反応の他に、「暴力を振るってしまった」という極端なものがある。出院期は、「励まされた」「教えられた」「感謝している」「優しく接した」「頑張れ」などの親和的内容の反応が多い。

S 8：（前の）少年院生活で辛かったことは、

① 出院期における初入群と再入群の反応

再入群は、他生との関係で「対人関係が一番きつかった」という反応が多く、「自分の弱いところを見つめること」と自己改善に苦しみ、「毎日の生活すべて」「自由がなかったこと」と自由の制限に辛さを感じていた反応が目立つ。初入群では、「体育」「サーキット」「予科の行動訓練」など運動・体育・行動訓練に類することが辛く、「親に会えないこと」「友達や彼女と遠く離れてしまったこと」など隔離に対する苦痛を思わせる反応が特徴的である。

② 新入期と出院期における再入群の反応

①と同じ傾向があり、新入期の方が、家族との隔離と運動など体を動かすことが辛かった、という反応が多い。

S 9：（前の）少年院生活で嬉しかったことは、

① 出院期における初入群と再入群の反応

初入群、再入群に共通して多い反応は、「自分が変わった実感」という自己変革と「両親の手紙と面会」を受けた時の喜びについての反応である。再入群に特徴的な反応は、「資格取得ができたこと」であり、初入群では、「ほめられたこと」「賞状をもらった」という認められたこと、「親が本当の親としてみられたこと」「両親の愛情を知ることができた」など親子関係が良くなったという反応である。

② 新入期と出院期における再入群の反応

表2-1 私が(前の)少年院で学んだことは

No	分析内容	B 新入・再入群		C 出院・初入群		D 出院・再入群	
		反応数	%	反応数	%	反応数	%
1	否定	18	8.6	1	0.4		
2	人間関係	20	9.6	34	12.1	32	19.6
	① 単に対人関係	11	5.3	15	5.4	16	9.8
	② 単に交友関係	2	1.0	1	0.4	2	1.2
	③ 対人関係の難しさ・あり方・大切さ	7	3.3	18	6.4	14	8.6
3	親・家族関係	11	5.3	16	5.7	6	3.7
	① 大切さ・有り難さ・愛情	6	2.9	13	4.6	5	3.1
	② 接し方	4	1.9	3	1.1	1	0.6
	③ 単に関係	1	0.5				
4	行動規範	87	41.6	130	46.4	81	49.7
	① 自制・忍耐・我慢	18	8.6	26	9.3	17	10.4
	② 自信・信念	6	2.9	5	1.8	4	2.5
	③ 努力・根気・頑張る	11	5.3	18	6.4	7	4.3
	④ 規則遵守	3	1.4	4	1.4	2	1.2
	⑤ 常識・礼儀・教養	6	2.9	11	3.9	6	3.7
	⑥ 集中力・持久力	2	1.0	1	0.4	4	2.5
	⑦ 規則的生活	4	1.9	2	0.7	3	1.8
	⑧ 善悪判断	3	1.4	1	0.4	3	1.8
	⑨ 責任感	3	1.4	5	1.8	1	0.6
	⑩ 思いやり・相手の立場を尊重・相互理解	16	7.7	27	9.6	11	6.7
	⑪ 協調・信頼・協力	6	2.9	11	3.9	9	5.5
	⑫ 自主性	1	0.5	2	0.7		
	⑬ 生活目的	3	1.4	2	0.7	1	0.6
	⑭ 積極性	3	1.4	2	0.7		
	⑮ 自尊心	2	1.0	1	0.4	1	0.6
	⑯ 内省力			7	2.5	6	3.7
	⑰ 素直さ			4	1.4	2	1.2
	⑱ 性・異性						
	⑲ 慎重さ・熟慮			1	0.4	2	1.2
	⑳ 自己表現					2	1.2
5	職業関係	20	9.6	11	3.9	8	4.9
	① 大切さ	7	3.3	3	1.1	6	3.7
	② 資格取得	3	1.4	2	0.7		
	③ 必要性	3	1.4				
	④ 楽しさ	3	1.4	2	0.7		
	⑤ その他	4	1.9	4	1.4	2	1.2
6	非行	18	8.6	12	4.3	2	1.2
	① 非行の諫め	7	3.3	4	1.4	1	0.6
	② 非行仲間との離別	4	1.9				
	③ 非行の結果	5	2.4	2	0.7		
	④ 反社会性	2	1.0	6	2.1	1	0.6
7	問題点把握・自己改善						
8	中庸	4	1.9	5	1.8	2	1.2
9	社会について						
10	悔悟	6	2.9	4	1.4	4	2.5
11	勉学	4	1.9	3	1.1	2	1.2
12	生き方・人生						
13	更生			2	0.7		
14	社会生活の仕方	1	0.5	5	1.8	4	2.5
15	その他	5	2.4	18	6.4	5	3.1
16	無記入	4	1.9	1	0.4		
	合計	209	100.0	280	100.0	163	100.0

表2-2 （前の）少年院に入った頃に比べて今の私は

No	分析内容	B 新入・再入群		C 出院・初入群		D 出院・再入群	
		反応数	%	反応数	%	反応数	%
1	肯定	76	58.9	188	94.5	95	93.1
	① 変わった	4	3.1	28	14.1	10	9.8
	② 成長した	4	3.1	19	9.5	10	9.8
	③ 精神的・身体的成長	8	6.2	8	4.0	5	4.9
	④ 大人になった	1	0.8	7	3.5	11	10.8
	⑤ 意欲的になった	8	6.2	6	3.0	6	5.9
	⑥ 先が明るい	1	0.8	1	0.5	5	4.9
	⑦ 慎重・冷静になった。落ち着きが出た	7	5.4	7	3.5	4	3.9
	⑧ 意志が強くなった			4	2.0	3	2.9
	⑨ 忍耐強くなった	1	0.8	8	4.0	4	3.9
	⑩ 考え方が変わった	8	6.2	23	11.6	9	8.8
	⑪ 内省できる	6	4.7	8	4.0	3	2.9
	⑫ 思いやり	4	3.1	17	8.5	6	5.9
	⑬ 自信がついた	1	0.8	5	2.5	4	3.9
	⑭ 自制ができる	1	0.8	6	3.0	4	3.9
	⑮ 立ち直り、更生	15	11.6	7	3.5	1	1.0
	⑯ 素直になった	4	3.1	6	3.0	3	2.9
	⑰ 善悪の判断が出る	1	0.8	11	5.5	1	1.0
	⑱ その他	2	1.6	17	8.5	6	5.9
2	不十分である	10	7.8	5	2.5	5	4.9
3	否定	33	25.6	4	2.0	2	2.0
	① 改善なし	10	7.8	3	1.5	1	1.0
	② 悪くなった	18	14.0			1	1.0
	③ 不安・焦り	5	3.9	1	0.5		
4	その他	6	4.7	2	1.0		
5	無記入	4	3.1				
	合計	129	100.0	199	100.0	102	100.0

表2-3 （前の）少年院で生活した私は

No	分析内容	B 新入・再入群		C 出院・初入群		D 出院・再入群	
		反応数	%	反応数	%	反応数	%
1	肯定・積極	38	29.5	147	73.5	72	70.6
	① 頑張った	8	6.2	13	6.5	2	2.0
	② 真面目にやった	7	5.4	4	2.0	2	2.0
	③ 見直せた・気づいた・反省した	2	1.6	12	6.0	4	3.9
	④ 自信がついた	2	1.6	6	3.0	4	3.9
	⑤ 変わった	7	5.4	18	9.0	12	11.8
	⑥ 大人になった・成長した			13	6.5	17	16.7
	⑦ 為になった・身に付いた・学んだ	2	1.6	41	20.5	16	15.7
	⑧ 更生しようと思った	5	3.9	1	0.5	3	2.9
	⑨ 前向きになった	2	1.6	2	1.0	4	3.9
	⑩ 相手の気持ちを考えるようになった			8	4.0	1	1.0
	⑪ 規則正しい生活出きるようになった			6	3.0	1	1.0
	⑫ 被害者の気持ちを考えた			4	2.0		
	⑬ 家族の大切さ・気持ちが分かった			8	4.0	2	2.0
	⑭ その他	3	2.3	11	5.5	4	3.9
2	両面・反省不足	6	4.7	21	10.5	15	14.7
	① 両面・反省不足	3	2.3	16	8.0	15	14.7
	② 反省不足	3	2.3	5	2.5		
3	否定・表裏	68	52.7	12	6.0	11	10.8
	① だめだ・変えることができない	8	6.2			4	3.9
	② どうでもいい	5	3.9				
	③ 表裏	8	6.2				
	④ 不満	6	4.7	5	2.5		
	⑤ やる気・意欲なし	13	10.1	2	1.0		
	⑥ 少年院はいや	4	3.1	2	1.0	2	2.0
	⑦ 出ることしか考えていなかった	9	7.0				
	⑧ 自分が悪かった	12	9.3	1	0.5	4	3.9
	⑨ その他	3	2.3	2	1.0	1	1.0
4	出院後	8	6.2	13	6.5	3	2.9
	① 積極的			11	5.5	1	1.0
	② 不安			2	1.0	2	2.0
	③ 失敗した	8	6.2				
5	その他	5	3.9	6	3.0	1	1.0
6	無記入	4	3.1	1	0.5		
	合計	129	100.0	200	100.0	102	100.0

表2-4 (前の) 少年院を出る頃の私は

No	分析内容	B 反応数	新入・再入群 %	C 反応数	出院・初入群 %	D 反応数	出院・再入群 %
1	積極的	81	56.6	135	67.2	74	71.2
	① 更生意欲	21	14.7	23	11.4	3	2.9
	② 希望・夢	3	2.1	5	2.5	6	5.8
	③ 過ちは繰り返さない、再び入りたくない	33	23.1	16	8.0	3	2.9
	④ 自己変化・成長	9	6.3	55	27.4	40	38.5
	⑤ 真面目に働く	7	4.9	4	2.0	1	1.0
	⑥ 家族(大切に・仲良く・安心させる)	6	4.2	6	3.0	2	1.9
	⑦ 自信	2	1.4	14	7.0	8	7.7
	⑧ 目的・目標			4	2.0	6	5.8
	⑨ その他			8	4.0	5	4.8
2	中庸	9	6.3	7	3.5	2	1.9
	① 楽しみ・うれしさ	7	4.9	7	3.5	2	1.9
	② 自由になりたい	2	1.4				
3	消極的	25	17.5	24	11.9	10	9.6
	① 不安・緊張・あせり	6	4.2	18	9.0	10	9.6
	② 遊び	7	4.9				
	③ 深く考えなかった・出ることだけ	12	8.4				
	④ 不十全感・後悔			6	3.0		
4	反発・反感	5	3.5	1	0.5		
	① 変わっていない	2	1.4	1	0.5		
	② 非行を考えていた	3	2.1				
5	両価	3	2.1	18	9.0	7	6.7
	① 不安と意欲			8	4.0	2	1.9
	② 不安・緊張とうれしさ	3	2.1	6	3.0	2	1.9
	③ 不安と期待・希望			2	1.0	3	2.9
	④ 不安と自信			2	1.0		
6	その他	20	14.0	16	8.0	11	10.6
	① その他	16	11.2	16	8.0	10	9.6
	② 無記入	4	2.8			1	1.0
	合計	143	100.0	201	100.0	104	100.0

表2-5 (前の) 少年院で忘れられないことは

No	分析内容	B 反応数	新入・再入群 %	C 反応数	出院・初入群 %	D 反応数	出院・再入群 %
1	楽しい、嬉しい、良かった	55	38.2	81	40.3	39	37.1
	① 先生の支え・素晴らしさ	28	19.4	13	6.5	12	11.4
	② 他生の支え・活動協力	7	4.9	6	3.0	6	5.7
	③ その他の人の支え・出会い			12	6.0	3	2.9
	④ 親の面会・行事参加	8	5.6	11	5.5	6	5.7
	⑤ 行事の楽しさ	5	3.5	11	5.5	6	5.7
	⑥ 努力したこと・達成感	4	2.8	15	7.5	4	3.8
	⑦ その他	3	2.1	13	6.5	2	1.9
2	辛い・悲しい・良くなかった	42	29.2	24	11.9	25	23.8
	① 規律違反・階級降下・調査謹慎	15	10.4	6	3.0	9	8.6
	② 自由がない	1	0.7	1	0.5	4	3.8
	③ 対人関係がうまくいかない	2	1.4	2	1.0	3	2.9
	④ 厳しかった・辛かった	6	4.2	5	2.5	3	2.9
	⑤ 先生との不和	6	4.2	3	1.5	1	1.0
	⑥ その他	12	8.3	7	3.5	5	4.8
3	両価(楽しい、辛い)	6	4.2	12	6.0	8	7.6
4	どちらでもない・事実	32	22.2	77	38.3	29	27.6
	① 仲間との生活	2	1.4	12	6.0	5	4.8
	② 行事・作業・特別教育	14	9.7	25	12.4	9	8.6
	③ 全て・毎日の生活・色々	4	2.8	11	5.5	7	6.7
	④ 先生の思い出・指導	7	4.9	11	5.5	3	2.9
	⑤ 先生や他生との出会い	1	0.7	6	3.0	2	1.9
	⑥ その他	4	2.8	12	6.0	3	2.9
5	その他	3	2.1	3	1.5	2	1.9
6	特になし	2	1.4	4	2.0	2	1.9
7	無記入	4	2.8				
	合計	144	100.0	201	100.0	105	100.0



表2-6 私は（前の）少年院の先生に

No	分析内容	B 新入・再入群		C 出院・初入群		D 出院・再入群	
		反応数	%	反応数	%	反応数	%
1	親和	98	75.4	154	79.0	77	75.5
	① 指導を受けた	21	16.2	30	15.4	13	12.7
	② 相談・助言を受けた	11	8.5	19	9.7	9	8.8
	③ 信頼・期待された	5	3.8	1	0.5		
	④ 激励してくれた	5	3.8	9	4.6	3	2.9
	⑤ 世話になった	10	7.7	16	8.2	7	6.9
	⑥ 感謝している	5	3.8	60	30.8	33	32.4
	⑦ 迷惑を掛けた	3	2.3	9	4.6	6	5.9
	⑧ 申し訳ない	31	23.8	3	1.5	3	2.9
	⑨ 甘えた	3	2.3			1	1.0
	⑩ 約束する	2	1.5	4	2.1	2	2.0
	⑪ その他	2	1.5	3	1.5		
2	反感	18	13.8	15	7.7	10	9.8
	① 疎遠	1	0.8	5	2.6	6	5.9
	② 不信	5	3.8			1	1.0
	③ 注意・指導された	4	3.1	3	1.5		
	④ 冷遇された	2	1.5	2	1.0	1	1.0
	⑤ 反抗・敵意	4	3.1	2	1.0	1	1.0
	⑥ 見放された	2	1.5	3	1.5	1	1.0
3	両価	5	3.8	18	9.2	5	4.9
4	中庸	3	2.3	4	2.1	5	4.9
5	その他	2	1.5	4	2.1	4	3.9
6	無記入	4	3.1			1	1.0
	合計	130	100.0	195	100.0	102	100.0

表2-7 私は（前の）少年院の他の生徒に

No	分析内容	B 新入・再入群		C 出院・初入群		D 出院・再入群	
		反応数	%	反応数	%	反応数	%
1	親和	27	20.9	107	55.2	58	56.9
	① 頑張れ			20	10.3	18	17.6
	② 学んだ・教えられた・助言を受けた	2	1.6	22	11.3	7	6.9
	③ 人間関係を学んだ			3	1.5	5	4.9
	④ 感謝している			13	6.7	6	5.9
	⑤ 助け、励まされ、親切に、優しくされた・支えられた	4	3.1	13	6.7	8	7.8
	⑥ 仲良くできた、認められた	13	10.1	10	5.2	4	3.9
	⑦ 優しく接した・気を使った	4	3.1	15	7.7	6	5.9
	⑧ 協力した・助け合った	1	0.8	10	5.2	4	3.9
	⑨ その他	3	2.3	1	0.5		
2	反目	29	22.5	15	7.7	18	17.6
	① 心が開かない	2	1.6	6	3.1	5	4.9
	② 批判			4	2.1	1	1.0
	③ 腹が立つ	3	2.3	2	1.0	2	2.0
	④ 嫌われていた	6	4.7	1	0.5	5	4.9
	⑤ 暴力を振るった	7	5.4	1	0.5		
	⑥ その他	11	8.5	1	0.5	5	4.9
3	両価	7	5.4	10	5.2	4	3.9
4	中庸	27	20.9	54	27.8	13	12.7
	① 申し訳ない・迷惑を掛けた	5	3.9	8	4.1	5	4.9
	② 反省する	2	1.6	22	11.3	5	4.9
	③ 普通に接した	4	3.1	1	0.5	1	1.0
	④ 何も無い	5	3.9	3	1.5		
	⑤ 良くなって貰いたい・アドバイスする	6	4.7	16	8.2	2	2.0
	⑥ 気づいた	3	2.3	4	2.1		
	⑦ その他	2	1.6				
5	負けたくない					3	2.9
6	その他	34	26.4	7	3.6	5	4.9
	① 社会での接触・連絡	8	6.2			1	1.0
	② 規律違反を誘う	8	6.2	2	1.0	1	1.0
	③ その他	18	14.0	5	2.6	3	2.9
7	無記入	5	3.9	1	0.5	1	1.0
	合計	129	100.0	194	100.0	102	100.0

表2-8 (前の) 少年院生活で辛かったことは

No	分析内容	B 新入・再入群		C 出院・初入群		D 出院・再入群	
		反応数	%	反応数	%	反応数	%
1	何もない	6	3.6	6	2.7	3	2.5
2	毎日の生活・全て	10	6.0	14	6.3	10	8.5
3	自由がない	11	6.6	21	9.5	22	18.6
4	進級・退院の遅れ	6	3.6	4	1.8	5	4.2
5	運動・体育・行動訓練	27	16.3	30	13.5	10	8.5
6	新入時の生活	8	4.8	8	3.6	2	1.7
7	他生との関係	16	9.6	19	8.6	14	11.9
8	自分の失敗	5	3.0	4	1.8	6	5.1
9	家族・友人との隔離	22	13.3	18	8.1	4	3.4
10	指導・調査・謹慎	10	6.0	9	4.1	6	5.1
11	先生との疎隔感	4	2.4	1	0.5	2	1.7
12	淋しさ	3	1.8	2	0.9		
13	面会がなかったこと	2	1.2				
14	食べ物	3	1.8	3	1.4	1	0.8
15	気候(暑さ・寒さ)	3	1.8	9	4.1	1	0.8
16	作業・実習	4	2.4	11	5.0	5	4.2
17	集会	2	1.2	1	0.5	2	1.7
18	自己改善	3	1.8	15	6.8	11	9.3
19	非行反省	3	1.8	3	1.4		
20	面会時の母の姿	2	1.2	5	2.3	1	0.8
21	認めてもらえない			5	2.3		
22	集団生活・個室生活			4	1.8	2	1.7
23	その他	12	7.2	30	13.5	11	9.3
24	無記入	4	2.4				
合計		166	100.0	222	100.0	118	100.0

表2-9 (前の) 少年院生活でうれしかったことは

No	分析内容	B 新入・再入群		C 出院・初入群		D 出院・再入群	
		反応数	%	反応数	%	反応数	%
1	自己変容・頑張り	7	4.1	21	8.9	13	10.7
2	受賞・誉められた・認められた	22	12.9	22	9.4	8	6.6
3	努力が報われた・達成感を得た	4	2.3	18	7.7	6	5.0
4	資格取得	27	15.8	9	3.8	6	5.0
5	親・家族の面会と手紙	23	13.5	29	12.3	33	27.3
6	親子関係が良くなった	3	1.8	19	8.1	1	0.8
7	他の人の面会や手紙		0.0	4	1.7	1	0.8
8	先生に親和・相談・指導してもらった	10	5.8	16	6.8	7	5.8
9	役割を与えられた・頼りにされた・期待された	3	1.8	8	3.4	1	0.8
10	他生との協力・親和	13	7.6	17	7.2	3	2.5
11	良い成績・選ばれた	3	1.8	3	1.3	4	3.3
12	体力・スポーツ能力向上	6	3.5	1	0.4	5	4.1
13	行事	5	2.9	16	6.8	4	3.3
14	進級	7	4.1	6	2.6	1	0.8
15	仮退院・式	8	4.7	6	2.6	2	1.7
16	特食	2	1.2	10	4.3		0.0
17	院外での教育・活動	1	0.6	4	1.7	5	4.1
18	なし・忘れた	14	8.2	6	2.6	5	4.1
19	その他	9	5.3	19	8.1	15	12.4
20	無記入	4	2.3	1	0.4	1	0.8
合計		171	100.0	235	100.0	121	100.0

新入期では、出院期と同様に親族との面会・通信に喜びを感じている反応が多いが、特徴的な点は「体育で賞状をもらったこと」や「先生にほめられたとき」など、周囲から認められたことに喜びを感じ、「ぼくでもワープロや危険物の資格が取れたこと」「大検でいい成績がとれたこと」など資格取得に満足している反応が多いことである。

#### オ 考察

S1からS4の刺激文に対する反応から、少年が少年院で生活し、入院期と出院期ではどうなっているのかを考察する。

ほとんどの少年が少年院教育で学んだことは、忍耐すること、思いやりなど行動規範に関することが多く、仲間関係の難しさに気を使いながらも、大人になった、成長したと自覚するようになっている。

再入少年についてみると、新入期には、やる気がなかったと前回の少年院生活を反省し、仕事の大切さや不良交友の問題に気づきながらも、再び少年院へ収容されたことへの自責感やいらだちから、少年院では何も学ばなかったという反応になると思われる。出院期になると、成長した、大人になったと自信を持ちつつも、不安や緊張を感じている様子が見ええる。

S5からS9の刺激文の反応から、少年が少年院生活で忘れられないこと、嬉しかったこと、辛かったこと、先生や仲間の院生たちのこと、などをどのように感じているかが具体的にうかがえる。忘れられないこととして、教官の親身な指導と規律違反による謹慎についての反応が多く、難しい仲間関係の中で他生に対しては親近感を抱き、互いに助け励まし合う少年院生活を示唆している。家族との面会や通信が最高の喜びであることは明らかに示されているが、自分が変わったという実感や周囲から認められること、資格を取得することなどに大きな喜びを感じている姿が浮かんでくる。少年院生活の辛かったこととし

て、自由がないこと、家族らとの隔離などについての反応は当然予想されることであるが、自己改善の努力と対人関係の難しさにふれ、運動や行動訓練が辛かったと、体を動かすことが不得意なのかと思わせる反応が特徴的であった。新入期の再入少年には、教官や他の院生に疎遠な感情を表している反応もあるが、出院期の再入少年では親和的な反応が多くなっている。

## (2) 言語連想法

### ア 調査対象者人員

性別、群別として表1に示した756名全員である。この調査は、新入教育期の初入少年でも、その時に持っているイメージで反応できると考えられるため含めてある。

### イ 反応語数

反応語数は制限を設けなかったが、記入欄を9個としたために、1人の反応数は9個が最頻値となり、中央値6、最小値1、最大値13となり、（記入欄外にも書いたものが若干いたため）平均反応数5.96（SD=2.52）、総反応数4513となった。図1にその分布状態を示したが、5個を頂点とするなだらかな放物線を描いた部分と9個の部分のみが突出した2極の分布になっている。

男女別では、男子平均5.91（SD=2.54）、女子平均5.87（SD=2.41）となっていて、男女による反応数の差はなかった。

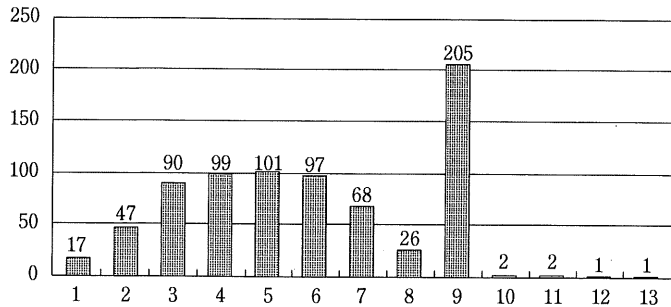
### ウ 結果

#### ①全般的傾向

各反応語別に反応数を調べた結果が表3である。ただし反応の多い順に上位63番目までとした。（反応数10個以上）

男女を通じて全般的に言えることは、「厳しい」「つらい」「いじめ」「坊主頭」「自由がない」「更生」といった反応が多いことである。

院生にとって、坊主頭になることが辛く、自由の利かない生活が厳しいものと感じられ、



注：縦軸は人員，横軸は反応個数を表す。

図1 「言語連想法」反応後数分布

表3 男女別・カテゴリー別反応数

順位	カテゴリー	男子	女子	合計	順位	カテゴリー	男子	女子	合計
1	厳しい	283	75	358	33	癖	27	4	31
2	つらい	186	24	210	34	苦しい	27	3	30
3	自由がない	131	18	149	35	不良	19	10	29
4	いじめ	107	35	142	36	しんどい	25	3	28
5	こわい	108	17	125	37	犯罪者	26	2	28
6	更生	97	13	110	38	犯罪	18	7	25
7	鉄格子	82	10	92	39	悲しい	21	3	24
8	坊主頭	71	5	76	40	不良が行くところ	20	3	23
9	反省	62	9	71	41	1年間	17	4	21
10	行きたくない	49	6	55	42	資格	17	3	20
11	暗い	38	17	55	43	どんなところだろう？	19	0	19
12	集団	37	13	50	44	孤独	17	1	18
13	非行	39	11	50	45	刑務所	14	3	17
14	運動・体育	42	7	49	46	作業	15	2	17
15	長い	42	6	48	47	暴走族	15	2	17
16	規則正しい	38	9	47	48	頑張る	13	3	16
17	勉強	38	8	46	49	施設名・地名	13	3	16
18	不良の集まり	36	8	44	50	会えない	12	3	15
19	嫌だ	38	4	42	51	隔離	13	2	15
20	教育	35	6	41	52	壁	13	2	15
21	先生がこわい	33	8	41	53	最悪	15	0	15
22	非行少年	36	5	41	54	暴力	12	3	15
23	さびしい	37	3	40	55	運動がきつい	13	1	14
24	麦飯	31	8	39	56	檻	5	7	12
25	きつい	33	5	38	57	訓練	12	0	12
26	寒い	29	7	36	58	立ち直る	11	1	12
27	食事がまずい	27	9	36	59	不安	10	2	12
28	悪い	28	8	36	60	家族	8	3	11
29	農作業	30	5	35	61	早寝早起き	9	2	11
30	汚い	23	9	32	62	寮	10	1	11
31	努力	28	4	32	63	進級	8	2	10
32	矯正	28	3	31					

仲間関係でいやな思いををするのではないかと  
いう不安があり、同時に更生の場であるとい  
う認識があるのではなからうか。

### ②各群別上位15位までの反応語

表4-1を見ると、当然のことながら全般  
的傾向と同じ反応が各群の上位に共通して出  
ているが、その中で各群の特徴的な点を探っ  
てみた。男子の各群については、新入期の初  
入・再入群には、「反省」「勉強」「さびし

い」「長い」という反応があり、新入期の意  
欲と共に寂しさを感じている様子がうかがわ  
れる。出院期の初入・再入群に共通するのは、  
「非行少年」という反応であり、出院に際し  
て、社会から非行少年というレッテルを貼ら  
れる心配を感じているのであろうか。女子に  
ついては調査人員が少ないので、資料（表4  
-2）を提示するにとどめる。

表4-1 男子・群別・上位15項目

順位	新入・初入群		新入・再入群		出院・初入群		出院・再入群	
	カテゴリー	反応数	カテゴリー	反応数	カテゴリー	反応数	カテゴリー	反応数
1	厳しい	129	つらい	49	厳しい	69	厳しい	37
2	つらい	60	厳しい	48	つらい	54	自由がない	35
3	こわい	53	自由がない	35	こわい	38	鉄格子	26
4	いじめ	40	更生	25	いじめ	38	更生	24
5	反省	34	鉄格子	20	自由がない	31	つらい	23
6	坊主頭	32	いじめ	19	更生	31	こわい	11
7	自由がない	30	反省	18	鉄格子	24	非行少年	11
8	長い	27	坊主頭	17	行きたくない	18	いじめ	10
9	教育	24	さびしい	12	集団	17	麦飯	10
10	更生	17	長い	11	非行少年	14	暗い	9
11	勉強	17	運動・体育	10	坊主頭	14	非行	9
12	行きたくない	17	勉強	10	運動・体育	14	坊主頭	8
13	不良の集まり	17	嫌だ	8	汚い	14	行きたくない	8
14	さびしい	16	規則正しい	8	不良の集まり	14	矯正	8
15	規則正しい	15	苦しい	8	きつい	13	規則正しい	7

表4-2 女子・群別・上位15項目

順位	新入・初入群		新入・再入群		出院・初入群		出院・再入群	
	カテゴリー	反応数	カテゴリー	反応数	カテゴリー	反応数	カテゴリー	反応数
1	厳しい	36	厳しい	5	厳しい	29	厳しい	5
2	いじめ	19	つらい	4	いじめ	15	犯罪	2
3	こわい	14	自由がない	3	つらい	10	こわい	2
4	つらい	10	非行	2	自由がない	9	いじめ	1
5	反省	7	こわい	1	暗い	8	自由がない	1
6	規則正しい	7	規則正しい	1	更生	7	暗い	1
7	暗い	7	暗い	1	汚い	7	鉄格子	1
8	集団	7	勉強	1	集団	6	不良	1
9	長い	6	更生	1	鉄格子	5	不良の集まり	1
10	勉強	6	悪い	1	不良	5	非行	1
11	非行	6	坊主頭	1	先生がこわい	5	悪い	1
12	食事がまずい	6	鉄格子	1	不良の集まり	4	食事がまずい	1
13	自由がない	5	運動・体育	1	非行少年	4	麦飯	1
14	更生	5	きつい	1	運動・体育	3	檻	1
15	麦飯	5	寒い	1	寒い	3	1年間	1

## ③初入・再入群別上位15位までの反応語

表5を見ると、初入群，再入群共に、ほとんど同じ項目が上位15項目の中に含まれている。しかし詳細に見るとそれぞれの群に特徴的傾向がうかがわれる。初入群は、少年院を「厳しい」と感じる度合いが強く、「こわい」とか「いじめ」といった不安を持ちながらも、

「教育」や「反省」の場であるといった認識があるのではなかろうか。再入少年にとって少年院は、「鉄格子」があって、「自由がない」環境と感じ、その中で「規則正しい」生活をしながら「更生」を目指すといった認識になっていると思われる。

表5 男子・初入・再入別上位15項目

順位	初 入 群		再 入 群		順位	再 入 群	
	項 目	反応数	%	項 目		反応数	%
1	厳しい	198	12.6	厳しい	85	9.8	
2	つらい	114	7.3	つらい	72	8.3	
3	こわい	91	5.8	自由がない	70	8.0	
4	いじめ	78	5.0	更生	49	5.6	
5	自由がない	61	3.9	鉄格子	46	5.3	
6	更生	48	3.1	いじめ	29	3.3	
7	坊主頭	46	2.9	坊主頭	25	2.9	
8	反省	40	2.6	反省	22	2.5	
9	鉄格子	36	2.3	こわい	17	2.0	
10	行きたくない	35	2.2	運動・体育	16	1.8	
11	長い	31	2.0	非行	16	1.8	
12	不良の集まり	31	2.0	非行少年	16	1.8	
13	教育	29	1.8	規則正しい	15	1.7	
14	集団	28	1.8	麦飯	15	1.7	
15	運動・体育	26	1.7	行きたくない	14	1.6	

## エ 考察

全般的傾向に現れているように、院生らの少年院の対するイメージは、一言でいえば“厳しい”というものである。このような感じ方は素直な反応と云えるが、これは直感的反応の出やすい言語連想法的な手法による調査の効果であろう。男子に限っての考察であるが、新入期－出院期の軸と初入－再入の軸で特徴が現れていた。新入期の更生意欲と淋しさ、出院期の不安が示唆されている。また初入群は、少年院生活での対人関係に不安を感じつつ、教育や反省の場としてとらえ、再入群は拘束感を感じながら、社会での更生を考える生活を送るのであろうか。

## (3) 少年院で受けた指導に関する認識

## ア 調査対象者

少年が在院中に受けた指導についての質問であるから、新入教育期の初入群を除き、表6の3群とした。なお女子は調査人員が少ないため、群別の分析は行わず、全体的傾向を考察するにとどめる。

表6 調査対象者数

群 別	男子	女子	合計
新入・再入群(B群)	116	9	125
出院・初入群(C群)	192	48	240
出院・再入群(D群)	104	8	112
合 計	412	65	477

## イ 分析方法

院生が「ためになった」と考える指導は、どういったものかを調べるために、各指導項目について、「ためになった」または「少しためになった」と回答した人員を合計し、それと経験した者の人員との割合を算出して、各群別の比較を試みた。即ち、ある指導を経験した院生の中で何%の者が「ためになった」と判断しているかを基準として比較した。

## ウ 結果

### ①全般的傾向

表7と表8は男女別に「ためになった」と答えた率の高い順に指導項目を並べたものである。これを見ると、男女共にほとんどの指導がためになったと高い率で判断している。

男子については、当該指導を経験した者のうち90%以上の院生がためになったと判断した指導項目は7項目、80%以上が22項目、70%以上が9項目になっている。すなわち、49項目中38項目が70%以上の院生に「ためになった」と判断されている。

高い率で「ためになった」と判断された指導項目のうち、上位15項目を見ると、院外実習、職業指導、資格取得、職場見学、作業など職業に関する項目、スポーツに関する項目、寮集会や役割活動など自治活動に関する項目、面会や通信などの外部との交通に関する項目の外、生活習慣、漢字学習、奉仕活動、教官との面接となっている。

逆に低い率の10項目には、群別指導（異性関係）、ロールプレイ、ロールレタリング、SSTなど比較的新しい指導技法と音楽、絵画陶芸、俳句短歌など技能や創作活動の指導項目があり、その他は行動訓練、課題図書、帰省外泊となっている。

女子は男子と類似した結果になっているが、相違している点は、宿泊面会、内観、衛生講話、薬物や異性問題群別指導について、高い率でためになったと答えている。

低い率の項目は10項目中7項目が男子と同

じであり、その他はスポーツ、クラブ活動、感想文発表である。

### ②各群別の比較

表9は、男子の新入期再入群、出院期初入群、出院期再入群の院生それぞれが、ためになったと評価した項目のうち、上位15項目について整理した表である。

この表によると、7項目が3群に共通であり、教官との面接相談、職業補導、院外実習、漢字練習、スポーツ・トレーニング、奉仕活動、規則正しい生活となっている。

2群に共通する項目は8項目であるが、新入期と出院期の再入群間に共通の項目はない。新入期再入群と出院期初入群間に共通な項目は、外部との通信、宿泊面会、課題作文・日記の3項目である。出院期初入群と出院期再入群間に共通の項目は、面会、職業資格取得、農場作業、役割活動、職場・職安等の訪問の5項目になっている。

共通する群のない項目は、その群の特徴を表すと思われるが、新入期再入群が5項目、出院期再入群が3項目となっていて、出院期初入群にはない。

新入期再入群の5項目は、内観、援助集会、先生との会話、運動のチームプレー、受賞となっている。出院期再入群の3項目は、交通問題群別指導、季節の行事・レク活動、パソコン自習である。各群の低い率の項目を5項目ずつ取り出してみると、全体の傾向とほとんど同じであった。

### エ 考察

この調査は、さまざまな指導について、「ためになった」かを院生に質問しているものであり、院生の主観による判断である。

したがって客観的事実とは言えないが、院生が指導をどのように認識しているかを知ること、指導の前提であり、大切な手掛かりになると考えられる。

また、院生に判断を求めた「ためになった」という基準はやや曖昧なものであるが、筆者

表7 男子(3群合計412名)のためにあった指導の順

順位	No	質 問	経験者 合 計	経験率	5 + 4	%	2 + 1	%
1	32	スポーツやトレーニングをする	401	97.3	382	95.3	5	1.2
2	47	規則正しい生活習慣を身につける	406	98.5	381	93.8	11	2.7
3	29	漢字を覚えたり、字を書く練習をする	397	96.4	370	93.2	8	2.0
4	25	院外の職場で実習する	143	34.7	131	91.6	1	0.7
5	24	職業補導で実習する	364	88.3	332	91.2	7	1.9
6	41	奉仕活動などに参加する	277	67.2	252	91.0	4	1.4
7	1	先生と面接して、自分のことや将来のことを相談する	401	97.3	361	90.0	16	4.0
8	26	職業関係の資格を取る	316	76.7	283	89.6	14	4.4
9	43	出院にそなえ、職場やハローワーク、学校を訪問する	162	39.3	143	88.3	5	3.1
10	17	保護者や学校の先生や雇主と普通の面会をする	323	78.4	282	87.3	9	2.8
11	42	寮で自治活動をしたり、役割活動をする	397	96.4	346	87.2	7	1.8
12	33	サッカーや野球などのチームプレーをする	371	90.0	322	86.8	11	3.0
13	27	農場で作業をする	328	79.6	294	86.6	13	4.0
14	7	寮などで集会をし、自分の悪いところを助言してもらう	337	81.8	280	86.1	27	8.0
15	15	保護者や学校の先生や雇主と手紙のやり取りをする	380	92.2	326	85.8	15	3.9
16	16	親子で家庭寮に泊まったり、普通よりも長い時間面会をする	102	24.8	87	85.3	2	2.0
17	21	課題作文や日記などを書く	407	98.8	346	85.0	22	5.4
18	39	季節の行事やいろいろなレクリエーションに参加する	376	91.3	318	84.6	9	2.4
19	6	一週間ほど一人きりで、両親などに「してもらったこと」「して返したこと」などについて考え通す	255	61.9	215	84.3	13	5.1
20	30	毎日のちょっとした機会に、先生と気軽に話をする	375	91.0	314	83.7	11	2.9
21	37	野外に出てハイキング、キャンプや海水浴などをする	183	44.4	153	83.6	8	4.4
22	46	パソコン教材で自習する	135	32.8	111	82.2	2	1.5
23	12	グループを作るか寮ごとに日を決めて集まって、何回か交通安全について、先生の話を聞いたり、ビデオをみたり、話しあったりする	307	74.5	251	81.8	25	8.1
24	44	出院にそなえ、保護司や、保護観察官と面談する	202	49.0	165	81.7	11	5.4
25	38	運動会やスポーツ大会に参加する	375	91.0	306	81.6	15	4.0
26	11	グループを作るか寮ごとに日を決めて集まって、何回か薬物について、先生の話を聞いたり、ビデオをみたり、話しあったりする	286	69.4	233	81.5	22	7.7
27	49	賞をもらう	309	75.0	251	81.2	17	5.5
28	22	目標をどれくらい達成しているか自分で点検する	388	94.2	313	80.7	21	5.4
29	23	篤志面接委員の人と話す	181	43.9	146	80.7	13	7.2
30	28	中学校や高校の勉強をする	228	55.3	182	79.8	13	5.7
31	13	グループを作るか寮ごとに日を決めて集まって、何回か友達付き合いについて、先生の話を聞いたり、ビデオをみたり、話しあったりする	296	71.8	231	78.0	24	8.1
32	48	規律違反をして懲戒を受ける	185	44.9	143	77.3	17	9.2
33	45	ビデオ教材(娯楽ビデオは除く)を見る	372	90.3	287	77.2	20	5.4
34	8	寮などで集会をし、寮内の生活やきまりについて話しあう	370	89.8	284	76.8	34	9.2
35	36	感想文や自分の考えをまとめたものを人前で発表する	361	87.6	277	76.7	35	9.7
36	10	グループを作るか寮ごとに日を決めて集まって、何回か家族について、先生の話を聞いたり、ビデオをみたり、話しあったりする	247	60.0	189	76.5	12	4.9
37	34	クラブ活動をする	341	82.8	260	76.2	20	5.9
38	9	グループを作り、みんなでテーマを決めて話しあう	200	48.5	142	71.0	12	6.0
39	31	医務の先生に健康や衛生の話を聞く	315	76.5	217	68.9	35	11.1
40	35	これを読みなさいと言われて渡された課題図書を読む	307	74.5	201	65.5	40	13.0
41	14	グループを作るか寮ごとに日を決めて集まって、何回か異性との付き合い方について、先生の話を聞いたり、ビデオをみたり、話しあったりする	149	36.2	95	63.8	16	10.7
42	3	他の誰かになったふりをして演技してみても、その後自分たちが感じたことなどを話しあう	284	68.9	180	63.4	49	17.3
43	5	集団で行動するため、整列や行進の仕方を訓練する	407	98.8	253	62.2	52	12.8
44	20	歌を歌ったり、楽器を練習したり、音楽を聴いて楽しむ	354	85.9	215	60.7	38	10.7
45	2	空想上で誰かに手紙を書いたり、その人になったつもりで自分に返事を書く	266	64.6	154	57.9	53	19.9
46	4	人との接し方を役割演技などを通して何度も練習する	234	56.8	135	57.7	35	15.0
47	40	帰省外泊をする	26	6.3	15	57.7	1	3.8
48	18	絵を描いたり陶芸を楽しむ	284	68.9	158	55.6	43	15.1
49	19	俳句や短歌を詠む	259	62.9	85	32.8	84	32.4

注1 %は経験者に対する割合

注2 「5+4」は「ためにあった」と「少しためにあった」の合計、「2+1」は「あまりためにならなかった」と「ためにならなかった」の合計



表8 女子（3群合計65名）ためになった指導の順

順位	No	質 問	経験者 合 計	経験率	5 + 4	%	2 + 1	%
1	40	帰省外泊をする	2	3.1	2	100.0		
2	24	職業補導で実習する	45	69.2	44	97.8		
3	16	親子で家庭寮に泊まったり、普通よりも長い時間面会する	33	50.8	32	97.0		
4	6	一週間ほど一人きりで、両親などに「してもらったこと」「して返した こと」などについて考え通す	44	67.7	42	95.5		
5	1	先生と面接して、自分のことや将来のことを相談する	65	100.0	62	95.4	1	1.5
6	43	出院にそなえ、職場やハローワーク、学校を訪問する	43	66.2	41	95.3	2	4.7
7	42	寮で自治活動をしたり、役割活動をする	62	95.4	59	95.2		
8	47	規則正しい生活習慣を身につける	64	98.5	60	93.8	2	3.1
9	17	保護者や学校の先生や雇主と普通の面会をする	60	92.3	56	93.3		
10	31	医務の先生に健康や衛生の話聞く	56	86.2	52	92.9	2	3.6
11	11	グループを作るか寮ごとに日を決めて集まって、何回か薬物について、先 生の話の聞いたり、ビデオをみたり、話しあったりする	54	83.1	50	92.6	3	5.6
12	25	院外の職場で実習する	26	40.0	24	92.3		
13	41	奉仕活動などに参加する	39	60.0	36	92.3		
14	14	グループを作るか寮ごとに日を決めて集まって、何回か異性との付き合 い方について、先生の話の聞いたり、ビデオをみたり、話しあったりする	51	78.5	46	90.2	1	2.0
15	26	職業関係の資格を取る	51	78.5	46	90.2	2	3.9
16	10	グループを作るか寮ごとに日を決めて集まって、何回か家族について、先 生の話の聞いたり、ビデオをみたり、話しあったりする	40	61.5	36	90.0		
17	44	出院にそなえ、保護司や、保護観察官と面談する	39	60.0	35	89.7		
18	49	賞をもらう	52	80.0	46	88.5	1	1.9
19	27	農場で作業をする	49	75.4	43	87.8		
20	21	課題作文や日記などを書く	65	100.0	57	87.7	1	1.5
21	28	中学校や高校の勉強をする	31	47.7	27	87.1	1	3.2
22	29	漢字を覚えたり、字を書く練習をする	62	95.4	54	87.1		
23	15	保護者や学校の先生や雇主と手紙のやり取りをする	63	96.9	54	85.7	1	1.6
24	30	毎日のちょっとした機会に、先生と気楽に話をする	61	93.8	52	85.2		
25	46	パソコン教材で自習する	20	30.8	17	85.0	1	5.0
26	23	篤志面接委員の人と話す	39	60.0	33	84.6	1	2.6
27	39	季節の行事やいろいろなレクリエーションに参加する	61	93.8	51	83.6		
28	48	規律違反をして懲戒を受ける	48	73.8	40	83.3	2	4.2
29	38	運動会やスポーツ大会に参加する	56	86.2	46	82.1		
30	37	野外に出てハイキング、キャンプや海水浴などをする	27	41.5	22	81.5		
31	7	寮などで集会をし、自分の悪いところを助言してもらう	48	73.8	39	81.3	3	6.3
32	13	グループを作るか寮ごとに日を決めて集まって、何回か友達付き合いに ついて、先生の話の聞いたり、ビデオをみたり、話しあったりする	37	56.9	30	81.1	2	5.4
33	45	ビデオ教材（娯楽ビデオは除く）を見る	58	89.2	47	81.0	1	1.7
34	32	スポーツやトレーニングをする	63	96.9	50	79.4	3	4.8
35	9	グループを作り、みんなでテーマを決めて話しあう	43	66.2	34	79.1	3	7.0
36	8	寮などで集会をし、寮内の生活やきまりについて話しあう	65	100.0	51	78.5	4	6.2
37	22	目標をどれくらい達成しているか自分で点検する	62	95.4	48	77.4	2	3.2
38	12	グループを作るか寮ごとに日を決めて集まって、何回か交通安全につい て、先生の話の聞いたり、ビデオをみたり、話しあったりする	20	30.8	15	75.0	1	5.0
39	2	空想上で誰かに手紙を書いたり、その人になったつもりで自分に返事を書 く	38	58.5	27	71.1	3	7.9
40	3	他の誰かになったふりをして演技を試みて、その後自分たちが感じたこ となどを話しあう	44	67.7	31	70.5	6	13.6
41	35	これを読みなさいと言われて渡された課題図書を読む	57	87.7	40	70.2	2	3.5
42	33	サッカーや野球などのチームプレーをする	44	67.7	29	65.9	3	6.8
43	34	クラブ活動をする	39	60.0	25	64.1	2	5.1
44	5	集団で行動するため、整列や行進の仕方を訓練する	65	100.0	41	63.1	7	10.8
45	4	人との接し方を役割演技などを通して何度も練習する	35	53.8	22	62.9	6	17.1
46	36	感想文や自分の考えをまとめたものを人前で発表する	47	72.3	27	57.4	6	12.8
47	20	歌を歌ったり、楽器を練習したり、音楽を聴いて楽しむ	60	92.3	33	55.0	4	6.7
48	18	絵を描いたり陶芸を楽しむ	52	80.0	27	51.9	4	7.7
49	19	俳句や短歌を読む	41	63.1	14	34.1	9	22.0

注1 %は経験者に対する割合

注2 「5+4」は「ためになった」と「少しためになった」の合計、「2+1」は「あまりためにならなかった」と「ためにならなかった」の合計

表9 指導項目・男子・3群群・15位内の項目（共通数と組合せ）

No	項目	共通群数	群の組合せ
1	先生と面接して、自分のことや将来のことを相談する	3	B・C・D
24	職業補導で実習する	3	B・C・D
25	院外の職場で実習する	3	B・C・D
29	漢字を覚えたり、字を書く練習をする	3	B・C・D
32	スポーツやトレーニングをする	3	B・C・D
41	奉仕活動などに参加する	3	B・C・D
47	規則正しい生活習慣を身につける	3	B・C・D
15	保護者や学校の先生や雇主と手紙のやり取りをする	2	B・C
16	親子で家庭寮に泊まったり、普通よりも長い時間面会する	2	B・C
21	課題作文や日記などを書く	2	B・C
17	保護者や学校の先生や雇主と普通の面会をする	2	C・D
26	職業関係の資格を取る	2	C・D
27	農場で作業をする	2	C・D
42	寮で自治活動をしたり、役割活動をする	2	C・D
43	出院にそなえ、職場やハローワーク、学校を訪問する	2	C・D
6	一週間ほど一人きりで、両親などに「してもらったこと」「して返したこと」などについて考え通す	1	B
7	寮などで集会をし、自分の悪いところを助言してもらう	1	B
30	毎日のちょっとした機会に、先生と気楽に話をする	1	B
33	サッカーや野球などのチームプレーをする	1	B
49	賞をもらう	1	B
12	グループを作るか寮ごとに日を決めて集まって、何回か交通安全について、先生の話を聞いたり、ビデオをみたり、話しあったりする	1	D
39	季節の行事やいろいろなレクリエーションに参加する	1	D
46	パソコン教材で自習する	1	D

注 B=新入・再入群 C=出院・初入群 D=出院・再入群

らは「更生に役立った」という意味に理解されると考えた表現である。

ほとんどの指導が「ためになった」と判断されていることは、当然のこととして、その中でも、高い率でためになったと判断された指導項目と比較的低い率で判断された指導項目に注目して考察したい。

先にも述べたように、上位15項目の中で、比較的まとまりを見せている指導項目は、職業、スポーツ、自治活動、外部交通に関するものである。特に職業に関するものが5項目あり、院生は出院後の生活で職業がいかにか大切に感じていると思われる。

自治活動は院生にとって難しい活動だと思われるが、体験してみるとその大切さが理解できるのであろう。

スポーツは身体の鍛錬に役立つことは当然

として、外部交通と共に緊張を解放して、心の安らぎを得る機会となっていると理解される。

規則正しい生活習慣を身に付けることは少年院教育の基本的方針とも言えるが、これを院生がためになると判断したことは、教育の第一歩が達成されていると言えよう。また教官との面接相談がためになるということは、個別指導が院内生活に適応するためや出院後の生活においていかに大切かを示し、漢字学習のように取り組みやすく実生活に直結した指導が役立つことを示唆している。

一方、ためになったという判断率が低かった指導項目には、ロールプレイなど新しい指導技法によるものがある。これらの指導は院生が適切に指導に導入された場合には、人格の深い面までも矯正できる可能性もあるが、

指導技術が難しいことや院生に理解しにくいことが背景にあるのではなかろうか。また、情操や創造性を育む音楽鑑賞や創作活動が、ためになったという判断率の低い理由は、即実生活に役立たないと考えられるからであろうか。

女子については調査人員が少ないため解釈は妥当性を欠くおそれもあるが、その点に留意しながら解釈を試みる。女子院生がためになったと判断した指導項目の中で、女子に特徴的な項目は先に掲げたが、親子関係が特に複雑な女子少年にとって、宿泊面会や内観は親子の交流を図る場として、また親について考える機会として役立つものと思われる。また、女子に多い薬物事犯や性非行、異性問題に焦点を当てた衛生講話や薬物・異性問題群別指導は、その目的を達していると言えるのではなかろうか。判断率の低い項目は、男子の場合とほぼ同じである。

男子各群別の比較については、表9を参照すると各群の比較と同時に群間の組み合わせに注目したい。3群に共通な項目は全体の場合と同じであるが、2群に共通する場合の群の組み合わせには、新入期の組み合わせと出院期の組み合わせであり、再入群の組み合わせがないことである。このことは、新入期又は出院期という時期の要因のほうが、初入か再入という要因よりも判断に強い影響を及ぼしていることを示しているのであろうか。

新入期と出院期の再入群の差異を検討するために、共通しない指導項目を比較してみる。新入期再入群は「ためになった」項目として外部交通、宿泊面会、課題作文、内観、援助集会、先生との会話、スポーツ、受賞などがあり、これらの項目からうかがえることは、社会にいる親や関係者とのつながりを引きずりながらも、自らの努力と他生や教官の援助で自己改善に励もうとする姿が浮かんでくる。出院期再入群では面会、資格取得、農場作業、自治活動、職場訪問、交通安全教育、レクリ

ーション、パソコン自習を「ためになった」としており、出院に備えて、能力の向上や働くことに対する準備に努力している様子がうかがえる。

#### (4) 先行研究との比較

本研究と同様な目的を持った過去の研究の結果と本研究のそれとの対比を試みるが、調査対象や手法などに違いがあるため、厳密な比較はできないことに留意する必要がある。

前回入院した少年院の処遇が役立ったか否について、再入少年にアンケート調査した鈴木らの研究（1983）では、61.6%の少年が役立ったと答えているが、本研究でも49指導項目のうち、38項目で70%以上の少年がためになったと、かなり高率で判断している。役立たなかったとする処遇項目の中では、心理劇は本研究の結果と同じであるが、職員面接は異なっている。また末信らの研究（1989）では、出院少年に対して、何が嬉しかったかと質問し、進級や資格取得との回答を得て、何を学んだかという質問については、対人関係のあり方、協調の必要性との回答になっている。これらは、本研究の文章完成法による結果と一致する。女子施設の研究で、魚住ら（1992）は、少年らが基本的な生活習慣の指導について反応がないと述べているが、本研究では、かなり高い率で「ためになった」と判断している。以上、全くの概観であるが、先行研究と本研究の結果はほぼ同じ傾向を示しているが、当然のことながら、細かい点で違いも見られる。

#### 5 まとめ

今回の報告中の文章完成法や言語連想法による調査は、少年院生活に対して院生の持っている感じ方や見方を調査することを目的としたものである。したがって、分析にあたっては、反応に現れたものが、少年にとって少

年院で比較的強く印象づけられているものと  
考えて考察した。また、少年院で受けた指導  
に関する認識についても、少年がどう受け止  
めているかの一つの資料としての意義がある  
ものと思われる。

#### 参考文献

- 法務省矯正局 1965 法務省式文章完成法検  
査 解釈手引き
- 法務省矯正局 1992 全国の少年院特色ある  
その横顔
- 岡部俊六 1980 出院時点における感想文と  
SCTとの分析 矯正教育研究 5, 9-12
- 末信眞司 1989 出院時アンケート調査にみ  
る 在院少年の意識の変化について 矯正  
教育 研究 34, 124-139
- 小林俊雄 1989 言語連想検査WAT-2か  
ら見た心の世界 誠信書房
- 魚住絹代・渡辺玲子 1992 再入を防ぐため  
の効果的処遇のあり方について 矯正教育  
研究 37, 50-59